

# Oh-o! Meiji

## 公開シラバス

年度	2016 年度				
授業科目名	理工学部 卒業研究2				
担当教員	中 所 武 司 教授				
開講日	秋学期集中／その他／その他	単位数	4	キャンパス	生田
授業言語	日本語				

### 授業の概要・到達目標

ソフトウェア工学関連の研究テーマを設定し、研究計画から研究成果の評価までの一連のプロセスの経験を通じて、自ら考え、自ら行動する力を養う。具体的には、ソフトウェア生産技術分野に関して、問題発見能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、技術報告書作成能力の習得を目標とする。

### 授業内容

[第1回] 全体の進め方の説明  
 [第2回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第3回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第4回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第5回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第6回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第7回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第8回] 主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第9回] 卒業研究中間発表会  
 [第10回] 主たる技術課題に関する解決方法の改良案・代替案の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第11回] 主たる技術課題に関する解決方法の改良案・代替案の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第12回] 主たる技術課題に関する解決方法の改良案・代替案の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第13回] 主たる技術課題に関する解決方法の改良案・代替案の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第14回] 主たる技術課題に関する解決方法の改良案・代替案の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価。  
 [第15回] 卒業研究発表会と卒業論文の提出。

### 履修上の注意・準備学習の内容

なお、ソフトウェアに関する研究は、実際にその有用性と実現可能性を示すことが重要なので、プロトタイププログラムを開発しながら進めていくことを推奨する。研究状況報告に際しては、実施内容や技術課題や考察に関して、説得力のある根拠を示すことが望ましい。また、他の人の発表の時に積極的に質疑・討論に参加することを求める。発表終了後、発表者は議論した内容を議事録にまとめて、研究室のメーリングリストに流すこと。議論の時に答えられなかった質問については、後で調べて、議事録に掲載すること。

### 教科書

特になし

### 成績評価の方法

日常の研究態度、数回の研究状況報告と討議内容及び中間発表、卒業論文、最終発表を総合して評価する。なお、日常の研究態度には、他の人の発表の時の質疑・討論への積極的参加を含む。

### 指導テーマ

システムエンジニアリング(情報システム構築技法)の分野の Web アプリケーション構築技法や Web サービス連携技法を中心テーマとし、ソフトウェア開発環境(ソフトウェアアーキテクチャ、モデリング)、ソフトウェア設計技法(オブジェクト指向設計技法、フレームワーク)、プログラミング技法(オブジェクト指向プログラミング、コンポーネント)、ソフトウェア工学への人工知能応用(マルチパラダイム、エージェント)などの個別テーマも扱う。

### 進行計画

前半では、卒業研究テーマに関して、主たる技術課題に関する解決方法の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価・改良を行ない、中間報告書をまとめ、中間発表する。  
 後半では、主たる技術課題に関する解決方法の改良案・代替案の検討や実験(プログラミング)による検証及び評価を行い、最後に卒業論文にまとめ、卒業研究発表会で発表する。  
 全体を通じて、順番に研究状況報告を行ない、全員で議論する。